

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
3-7 (一般)	西口 修平	兵庫医科大学 医学部	教授	血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究	2011/12/16	・研究の目的であった、難治例に対する治療ガイドラインの策定について、原案を作成し、各班員の意見をとりまとめたいただいている。反対意見があるとのことだが、今後、まとめられるものと考えられる。またディシジョンツリーも策定しており、研究成果が上がっている。また、症例数も1300余りにのぼり、この点でも、評価できる。ガイドラインについては、今後の厚生行政に資するものと期待できる。	・ガイドラインの策定以外に、個々の班員の研究発表がなされたが、相互に有機的関連性が乏しいのではないかと。
3-8 (一般)	池田 一雄	名古屋市立大学 大学院 医学研究科	教授	日本人の細胞由来するiPS細胞からの誘導ヒト肝細胞を用いたキメラマウス肝炎モデル開発とその前臨床応用			
3-9 (一般)	堀田 博	神戸大学大学院 医学研究科	教授	肝炎ウイルスによる発がん機構の解明に関する研究	2012/1/13	・ウイルス等による肝炎がんの解明について、さまざまな角度から研究がなされている。	・純粋な基礎研究も医学の進歩に必要とは思われるが、臨床応用につながる成果の獲得を目指した研究の発展を望む。
3-10 (一般)	小池 和彦	東京大学 医学部附属病院	教授	肝炎ウイルスと代謝・免疫系の相互作用に関する包括的研究	2012/1/27		
3-11 (一般)	岡本 宏明	自治医科大学 医学部	教授	経口感染する肝炎ウイルス(A型・E型)の感染防止、遺伝的多様性および治療に関する研究	2011/8/6	・Science 面では成果が着実に出版している(例えばHEV新ジェノタイプ、異種間HEV感染、HEV増殖に関わる宿主因子)。HAV感染の分子疫学的調査からも刮目すべき知見が得られている。	・参加者漸増により班会議開催場所が手狭になって来た。次年度以降場所変更を考慮せられたし。
3-11 (一般)	岡本 宏明	自治医科大学 医学部	教授	経口感染する肝炎ウイルス(A型・E型)の感染防止、遺伝的多様性および治療に関する研究	2012/1/23		
3-12 (一般)	正木 尚彦	(独)国立国際医療 研究センター肝炎・ 免疫研究センター	肝炎情報センター 長	肝炎に関する全国規模のデータベース構築に関する研究	2011/8/4	・肝炎に関する全国規模のデータベース構築について、40以上の道府県から情報を収集するネットワークを形成することができている。HBs抗原陽性例の治療効果や、コア関連抗原に関する情報を集積することができる体制がほぼ整備された。 ・医療費助成を受けている人のうちインターフェロン治療に関して全国的な治療成績のデータベースを構築し、施策の有効性の評価に資する点。	・治療効果を見極めるためには、少なくとも、10年程度経過を追跡することが必要であり、本研究班の継続性が重要と考えられる。
3-13 (一般)	森島 恒雄	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究 科	教授	B型肝炎の母子感染および水平感染の把握とワクチン戦略の再構築に関する研究			

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
3-14 (一般)	坂井田 功	山口大学大学院 医学系研究科消化 器病態内科学講座	教授	骨髄および脂肪由来細胞を用いた次世代型肝臓再生・修復(抗線維化)療法の開発研究	2011/6/23	<ul style="list-style-type: none"> 肝硬変症に対する自己骨髄投与療法(AMBi療法)を中心に肝再生療法の臨床研究が進められている。また、肝再生に有効な細胞の効率の良い分離・培養技術の確立や、肝再生・修復メカニズムの解明に向け、必要な研究がなされている。 基礎の実験系のみならず、臨床においても同時に研究が進められ成果を上げている。他国との協力により症例数を増やしてデータを出している。 本邦では、肝移植が広く普及しないことから、本研究班のような、肝硬変の病態改善につながる治療法の開発につながる研究は、重要と考えられる。引き続き、成果の獲得に期待したい。 日本で開発された本治療法が国外でも試用され始め、有意の臨床効果と安全性が共に追認されたこと(例えば中国に於ける HBV-related liver cirrhosis の症例数 n=527 にも及ぶ臨床研究による)は實に喜ばしい。本研究班に於いて真摯に実行されて来た基礎的及び臨床的の両側面からの検討は、此の治療法を一層有効で安全なものへと改良して行く原動力として高く評価される。 	
3-14 (一般)	坂井田 功	山口大学大学院 医学系研究科消化 器病態内科学講座	教授	骨髄および脂肪由来細胞を用いた次世代型肝臓再生・修復(抗線維化)療法の開発研究	2012/1/12	<ul style="list-style-type: none"> 研究目標に沿って、様々な角度から着実に研究が進んでいると思われた。 基礎、臨床のバランスがとれており、すぐに臨床応用につながる成果の獲得が期待できる。 	
3-15 (一般)	本多 政夫	金沢大学 医薬保健研究域保 健学系	教授	肝がんの新規治療法に関する研究	2011/7/28	<ul style="list-style-type: none"> 肝炎に関する全国規模のデータベース構築について、40以上の道府県から情報を収集するネットワークを形成することができている。HBs抗原陽性例の治療効果や、コア関連抗原に関する情報を集積することができる体制がほぼ整備された。 	<ul style="list-style-type: none"> 治療効果を見極めるためには、少なくとも、10年程度経過を追跡することが必要であり、本研究班の継続性が重要と考えられる。
3-15 (一般)	本多 政夫	金沢大学 医薬保健研究域保 健学系	教授	肝がんの新規治療法に関する研究	2012/1/19	<ul style="list-style-type: none"> 本分野における、国内の専門家が揃っており、質の高い研究が多数行われている。 診療指針などの成果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、多数症例を蓄積することができれば、革新的な成果が期待できる。
3-16 (若手)	阿部 康弘	(独)医薬基盤研究 所 創薬基盤の研究部	プロジェクト研究 員	膜蛋白質発現系を利用したC型肝炎ウイルス感染受容体の生化学的・疫学的解析及び感染阻害剤の開発			
3-17 (若手)	楠本 茂	名古屋市立大学大 学院医学研究科腫 瘍・免疫内科学	講師	リツキシマブ併用悪性リンパ腫治療中のB型肝炎ウイルス再活性化への標準的対策法の確立及びリスク因子の解明に関する研究	2011/6/11	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に課題に取り組んでいる。過去3年間の高評価から、若手研究枠としては例外的に1年間の研究継続が認められたとのこととで、その成果を早期に論文化し、世界に発信されることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究のフォローアップが完全に終了する2012年7月まで、班全体としての研究支援体制を維持すべきではないか。(研究報告書は各班員において内容をより書き込まれることを要望する)
3-18 (若手)	鈴木 淳史	九州大学 生体防御医学研究 所	特任准教授	肝炎による肝未分化細胞の発生とその発癌への影響に関する研究			
4-1 (実用化)	渡辺 哲	東海大学医学部基 盤診療学系公衆衛 生学	教授	職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査とそれに基づく望ましい配慮の在り方に関する研究	2011/10/11	<ul style="list-style-type: none"> これからの工程スケジュールが明確になっている。 肝臓専門医の研究参画が予定(検討)されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業医大ネットワークを活用した大規模な調査を期待する。 より実効性のある成果を期待したい。

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
4-2 (実用化)	相崎 英樹	国立感染症研究所 ウイルス第二部	室長	慢性ウイルス性肝炎患者の情報収集の在り方等に関する研究	2011/10/17	・HIVや肝がんの登録システム等の他分野や海外における患者(症例)登録や情報収集の手法を積極的に参考にしている点。 肝炎患者だけでなく、肝炎ウイルス検診における陽性者のフォローアップについても検討している点。	
4-3 (実用化)	田中 英夫	愛知県がんセンター研究所疫学・予防部	室長	肝炎対策の状況を踏まえたウイルス性肝炎患者数の動向予測に関する研究	2011/10/28	・本研究班のミッションを班長が明確に認識しており、問題解決の為にタスクフォースの構成も最善に近い(特に山形と長崎と日赤が「実測値供給源」として取り込まれている)。	
4-4 (実用化)	平尾 智広	香川大学医学部公衆衛生学	教授	ウイルス性肝炎に係る各種対策の医療経済評価に関する研究	2011/9/19	・これまでにB型肝炎ワクチン以外では検討されてこなかった、肝炎対策を進める上での医療経済評価について専門家による検討が実施されている点。 他の研究班との協力・調整の上、研究を効率的に進めようとしている点。	
4-4 (実用化)	平尾 智広	香川大学医学部公衆衛生学	教授	ウイルス性肝炎に係る各種対策の医療経済評価に関する研究	2011/11/22	・研究の進捗が管理できている。他の研究班との連携ができている。	
4-5 (実用化)	田尻 仁	大阪府立急性期・総合医療センター小児科	部長	小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	2011/10/6	・目標が明確で、研究者のモチベーションが高い。 ・熊田班との連携が図られている。	・科学的に妥当性のあるガイドラインを作成するためには、症例数の集積が不可欠と思われる。該当患者数は、あまり多くはないと思われるが、全国規模で症例を集積し、エビデンスレベルの高いガイドライン作成を期待する。 ・引き続き、熊田班との連携を期待する。
4-6 (実用化)	工藤 正俊	近畿大学 医学部	教授	慢性ウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	2011/9/11 (欠席)		
4-7 (実用化)	成松 久	独立行政法人産業技術総合研究所糖鎖医学研究センター	センター長	肝炎病態指標血清マーカーの開発と迅速、簡便かつ安価な測定法の実用化	2011/10/15	・純粋国産の知財と技術の実用化を、国内の研究者及び臨床家の手で迅速に達成し、世界に向けて発信しようとする試みである。基本となる技術はほぼ確立しているし、実用化に向けてのこれからの道筋も明確に見えている。研究班の陣容にも不足はない。	
4-8 (実用化指定)	四柳 宏	東京大学感染症内科	准教授	集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究	2011/10/7	・目標が明確で、研究者のモチベーションが高い。 ・他の研究班との連携が図られている。 ・1年目でガイドラインの作成を視野に入れている。	・田尻班、八橋班、龍岡班などとの連携を期待する。
4-9 (実用化指定)	八橋 弘	国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター	部長	病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究			

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
4-10 (実用化指定)	泉 並木	武蔵野病院赤十字病院	副院長	慢性肝炎・肝硬変・肝癌の病態解明と各病態および都市形態別に求められる医療を考慮したクリティカルパスモデルの開発のための研究	2011/9/22	<p>・本研究班は、前年度まで、大都市圏における肝疾患診療体制の構築を推進するためのクリティカルパスの作成を課題とし、開発をしたところである。今年度からは、各都市形態別に求められる効率的診療体制の構築を目指した研究を行うこととしているところであり、研究班もこの目的に沿った形で形成されている。特に、日赤の全国ネットワークを活用し、全国の調査結果を取りまとめることができる点で、効果的であると考えられる。</p>	<p>・本年度は、全国2000の医療機関を対象に、病診連携の現状(ウイルス性肝炎の診療実績、HBs抗原陽性患者がみられた場合の他院紹介の現状等)についてアンケート調査を行うこととしている。ただ、この調査結果を、どのようにクリティカルパスの作成に繋げていくのか、今後の推移を見守る必要がある。</p>
4-11 (実用化指定)	龍岡 資晃	学習院大学 専門職大学院法務研究科	(法科大学院) 教授(実務家教員)	肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握しその被害を防止するためのガイドラインを作成するための研究	2011/10/7	<p>・初年度の本年度は、肝炎ウイルスの偏見・差別の実態を把握するために、医療機関、法律関係機関、一般市民を対象にアンケート調査を行うこととしている。対象を幅広くとろうと試みている点に、意欲が感じられる。</p> <p>・偏見や差別の実態把握をするための、調査手順・スケジュールなどが、示され、準備が進んでいると感じた。</p> <p>・時間が少ない中大変だが、最終的にガイドラインの作成までもってほしい。</p>	

(注) PO意見欄空欄の研究班については、POが欠席したものである。

平成24年度厚生労働研究費補助金公募要領（抜粋）

＜事業概要＞

B型・C型肝炎ウイルスに現在感染している者は、全国で合計約300～370万人と推定されており、国内最大級の感染症である。感染を放置すると肝硬変、肝がんといった重篤な病態に進行し、我が国の肝がんによる死亡者数の約9割がB型・C型肝炎ウイルス起因と報告されている。平成20年6月に、国内の肝炎研究専門家による肝炎治療戦略会議の中で、肝炎研究の今後の方向性やその実現に向けた対策についての「肝炎研究7カ年戦略」が取りまとめられた。さらに、平成22年1月に肝炎対策基本法（平成21年法律第97号）が施行され、同法において策定することとなっている肝炎対策の推進に関する基本的な指針が平成23年5月に告示され、同指針において国は、肝炎医療の水準の向上等に向けて、肝炎に関する基礎、臨床及び疫学研究等を総合的に推進する必要があるとされているところである。

このようなことから、肝炎ウイルス持続感染機序の解明や肝疾患における病態の進展予防法及び新規治療法の開発等を行う本研究事業は、国民の健康面での安心・安全の実現のために重要であり、今後も肝炎に関する疫学、基礎、臨床研究等を進め、引き続き、肝炎治療実績の大幅な改善につながる成果の獲得を目指す研究を推進する。

この公募は、本来、平成24年度予算成立後に行うべきものであるが、できるだけ早く研究を開始するために、予算成立前に行うこととしているものである。従って、成立した予算の額に応じて、研究費の規模、採択件数等の変更が生じる場合等がある。

＜新規課題採択方針＞

ウイルス性肝炎における、ウイルス因子、宿主因子の解析等により効率的な治療の促進を目指す研究、低下した肝臓機能を補完・再生する医療の実現を目指す研究、肝発がんの病態解明及び新規治療法に関する研究を重点的に行う。

研究費の規模：1課題当たり

- 一般公募型① 20,000千円～30,000千円程度（1年当たりの直接研究費）
- 一般公募型② 20,000千円～30,000千円程度（1年当たりの直接研究費）
- 一般公募型③ 20,000千円～30,000千円程度（1年当たりの直接研究費）
- 一般公募型④ 10,000千円～20,000千円程度（1年当たりの直接研究費）
- 一般公募型⑤ 40,000千円～50,000千円程度（1年当たりの直接研究費）
- 一般公募型⑥ 40,000千円～50,000千円程度（1年当たりの直接研究費）

一般公募型⑦ 50,000千円～70,000千円程度（1年当たりの直接研究費）

一般公募型⑧ 10,000千円～20,000千円程度（1年当たりの直接研究費）

若手育成型 2,000千円～8,000千円程度（1年当たりの直接研究費）

研究期間：

一般公募型①～⑧ 1～3年

若手育成型 1～3年

新規採択予定課題数：13課題程度、うち「若手育成型」については5課題程度

※各研究課題について原則として1課題を採択するが、採択を行わない又は複数の採択をすることがある。

若手育成型の応募対象：

平成24年4月1日現在で満39歳以下の者（昭和47年4月2日以降に生まれた者）

※新規採択時にのみ本条件を適用する。

※満年齢の算定は誕生日の前日に1歳加算する方法とする。

※産前・産後休業及び育児休業取得した者は、その日数を応募資格の制限日に加算することができる。

<公募研究課題>

【一般公募型】

- ① 肝炎に関する全国規模のデータベースを用いた肝炎治療の評価及び肝炎医療の水準の向上に資する研究（24190101）

医療費助成を受けて肝炎治療を行った全国の臨床データをもとにウイルス性肝炎治療の現状の評価を行い、今後の肝炎医療の水準の向上を目指した行政施策の推進に資する研究。

- ② 経口感染によるウイルス性肝炎の予防・治療に関する研究

（24190201）

A型及びE型肝炎の臨床データに基づいた、感染防止、病態解明、遺伝的多様性及び治療に関する研究。

- ③ B型肝炎の治療の最適化を目指す研究

（24190301）

B型肝炎に対する核酸アナログ製剤及びペグインターフェロンを含むインターフェロン製剤の効果的な投与方法に関する研究。

- ④ 免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬等によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立および長期経過症例の検討に関する研究 (24190401)

B型肝炎ウイルスキャリア及び既往感染者に対するさまざまな免疫抑制薬・抗悪性腫瘍薬治療におけるジェノタイプを踏まえたB型肝炎ウイルス再活性化を予防するための適切な対策法の確立と、長期的な観察による再活性化対策法の安全性の検証を行う研究。

- ⑤ 肝再生及び肝機能の維持回復に関する研究 (24190501)

ヒトiPS細胞、骨髄幹細胞、脂肪細胞由来幹細胞、肝細胞増殖因子(HGF)等を利用して、肝機能の維持回復、肝線維化の抑制に結びつく新規治療法に関する研究。

- ⑥ 肝がんに対する新規治療法に関する研究 (24190601)

化学療法と外科的療法、放射線療法や免疫療法を組み合わせた集学的治療に関する研究、肝がんに対する陽子線・炭素線治療に関する研究、肝がんの幹細胞に対する治療法の開発に関する研究、新規抗がん剤の評価と適正な患者対象の選択や使用方法に関する研究。

- ⑦ C型肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究 (24190701)

C型肝炎や非アルコール性脂肪性肝疾患等の代謝関連肝がんのハイリスク群の同定を含む病態解明および治療法の開発等に資する研究。

- ⑧ 肝疾患分野の研究を活性化し、社会的にも重要な肝炎に関する各種研究の推進を図ることを目的とする研究 (24190801)

肝疾患に関連する、臨床、基礎、疫学等研究分野の研究課題について、独創性や新規性に富む研究。

【若手育成型】

- 当該研究分野での研究を活性化し、将来にわたって肝炎研究を発展させる研究者を育

成し、社会的にも重要な肝炎に関する各種研究の推進を図ることを目的とする研究

(24190901)

本研究では、若手研究者が、肝炎ウイルスに関連する、臨床、基礎、疫学等研究分野の研究課題について、独創性や新規性に富む研究開発課題の提案し、実施することを求める。

<研究計画書を作成する際の留意点>

目標を明確にするため、研究計画書の「9. 期待される成果」に、当該研究により期待される科学的成果及び当該成果によりもたらされる学術的・社会的・経済的メリットを具体的に記載すること。また、「10. 研究計画・方法」に、年度ごとの計画及び達成目標を記載するとともに、実際の医療等への応用に至る工程を含めた研究全体の具体的なロードマップを示した資料を添付すること（様式自由）。

なお、研究課題の採択に当たっては、これらの記載事項を重視するとともに、中間評価及び事後評価においては、研究計画の達成度を厳格に評価する。その達成度（未達成の場合にはその理由、計画の練り直し案）如何によっては、研究の継続が不可となる場合もあり得ることに留意すること。

厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服緊急対策研究事業)

分担研究報告書

C型肝炎に関する国際情報収集

富澤 一郎 国立感染症研究所企画調整主幹

1 国際会議の概要

(1) HCV国際シンポジウム

開催日: 2010(H23)年 9月 8日-12日

場所 米国シアトル市

C型肝炎国際シンポジウムは、C型肝炎ウイルス及び関連ウイルスに係る研究の現状と今後の課題について、発表がなされる国際会議である。

参加者は、800名程度、アブストラクトが500程度であり、過去最大規模の開催となっている。

この会議においては、①ホストの遺伝学と宿主応答、②C型肝炎の発症機序、③ウイルスとホストの要因、④先天性免疫、⑤細胞免疫学、⑥世界的負担及びワクチン開発、⑦レプリケーション、⑧抗ウイルス療法、⑨ウイルス-宿主相互作用の各分野における研究発表がなされ、併せて、総会講演として、システム生物学、変容の技術と積極的なP4の薬の出現、ホストベースの ribarivin の抵抗は、C型肝炎ウイルスの複製および治療反応に影響を及ぼすことなどが行われた。

具体的には、

①については、システム生物学、変形テ

クノロジーと率先的な P4 医療の出現、ホスト遺伝学とホスト反応、肝細胞に特有の表現型とC型肝炎ウイルス処置反応、肝臓 IL-29/IFN- λ 1 による TLR7 rs179008 遺伝子変形の協会と慢性 C型肝炎の IFN-ラムダ・レセプター表現、慢性 C型肝炎患者の治療失敗と IL-28B 遺伝子型と関連したNK抑制レセプター表現、慢性 C型肝炎の軽い線維症の肝臓遺伝子発現サイン、肝移植の後のHCV患者の肝疾患進行に関連した遺伝子サイン、治療失敗と C型慢性肝炎患者における IL-28B 遺伝子型に関連付けられている NK抑制性受容体の発現、肝細胞特異的発現の表現型と C型肝炎ウイルスの治療の応答、②については、レーザー捕獲顕微解剖による慢性 HCV 感染症の免疫損失と関係性、HCVによる C-myc がん遺伝子表現の変調を通しての肝臓発癌誘発性及び酸化性ストレスと DNA の損傷の強化、HCVによって誘発されたガン幹細胞の TLR4-Nanog stemness 経路による YAP1-IGF2BP3-AKT-mTOR を通して TGF- β によって媒介される腫瘍抑制の抵抗、HCVによる SCID/Alb-uPA マウスの感染による、肝障害、アポトーシスと

線維症化、B 細胞のC型肝炎ウイルスの完全なゲノムの持続性の発現による、マウスで B 細胞リンパ腫の自然発達を誘発、誘導可能な要因-1 α が間充織移行に上皮に関して促進する低酸素のC型肝炎ウイルス安定化、

③については、リバビリンの反HCV活性を決定している宿主要因の識別、リバビリン治療は、生体内で肝内免疫に対するHCV NS3/4Aによる媒介、HCV感染している肝細胞の、RIG-IとTLR3依存的な方法でのCXCL10を生成、HCV感染している肝癌細胞のケモカインと刺激的なサイトカイン反応の起動は、HCV dsRNAの中間体を感じているTLR3を要する、新しいC型肝炎ウイルスの活動側面の識別は、宿主要因を結合、栄養失調は、慢性C型肝炎患者でmTORとFoxO経路で合図しているインターフェロンを損失、

④については、ミトコンドリアに関連するER膜による、C型肝炎ウイルスによって目標とされる生来の免疫シナプスの生成、plasmacytoid樹枝細胞へのウイルスRNAの短期exosomalな移動による、生来の宿主反応の起動

肝細胞によって生産されるタイプIIIインターフェロンの、急性HCV感染症における、インターフェロン刺激された遺伝子の誘導での役割、C型肝炎ウイルスの初期のナチュラルキラー細胞反応による、急性感染症を現さない医療従事者の露出、慢性C型肝炎ウイルス感染の間の肝臓樹枝細胞

⑤については、急性C型肝炎時のIL-21によるHCV特異的CD8T細胞の枯渇と生存の変調、HCVの量を追跡するために繰り返し接触すると、制御性T細胞の誘導を介して後続の高用量のHCVのチャレンジにT細胞応答を抑制、

⑥については、C型肝炎の感染の一般集団のスクリーニングの費用対効果と集団レベルの影響:70%を見つけること、HCV遺伝子型1a祖先配列には、広範なCD8+T細胞応答を誘発すること、

⑦については、HCV1A株HCV-RMTの小説感染性クローンを効率的に適応突然変異を用いてin vitroおよびin vivoでの複製、

⑧については、HCV NS5A:NS5BとサイクロフィリンAとシクロフィリン阻害剤耐性変異の分子特性との相互作用のNMR解析、

⑨については、胚および誘導多能性幹細胞由来の分化したヒト肝細胞のHepatitis Cのウイルス感染などの研究発表がなされている。

本会議の意義は、C型肝炎に関する学界と産業界から一流の科学者から、現在と将来の研究について幅広いは票がなされることにあるが、さらにパネルディスカッションなどを通じて、個々の意見を述べるなど、双方向的で有意義な情報交換の場となっていることにも注目すべきである。

厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服緊急対策研究事業)

分担研究報告書

研究評価支援システムの開発 ～評価業務の分析～

研究代表者 富澤 一郎 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究要旨 Web を用いて研究評価(採点)を行う研究評価支援システムを開発した。合わせて、評価者が評価を行う作業の記述を行った。

研究類型:システム開発/記述疫学

背景・目的

本研究では、Web を用いて研究評価(採点)を行う研究評価支援システムを開発した。本システムは、肝炎等克服緊急対策研究事業と同じ厚生労働科学研究事業の1つである新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業で筆者が研究代表者を努める「新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究」の一環として開発したシステムを肝炎等克服緊急対策研究事業用にカスタマイズしたものである。

評価委員会委員が Web にアクセスし、研究課題の研究計画書及び成果概要を見ながら、評価を行うシステムである(図1, 2)。

2009(平成 21)年度から「研究成果等

の共有システムの提案」に関する検討を開始し、2010 年(平成 22)から本格的なシステム開発を進め、本年度は、厚生労働省担当者と筆者により試行を行った。試行を行うにあたって、システムの問題点を抽出するのみでなく、評価委員会委員が評価を行う業務の分析を行った。

方法

1 システムのカスタマイズと機能追加
「新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究」で開発した評価支援システムを肝炎等克服緊急対策研究事業の評価基準に合わせて、評価項目を変更、及び画面のレイアウトやフォントの大きさ等のユーザインタフェースの再検討を行った。

具体的には、評価担当者と事務局

の意見を反映し、以下の修正・追加を行った。

1. 肝炎等克服緊急対策研究事業の新たな評価基準に合わせた評価フォーマットの変更
2. 全体のユーザインタフェース(評価者画面／管理者画面)の見直し
3. 管理者権限の細分化(管理者／一般管理者)
4. 評価票作成／印刷機能の追加
5. 再評価用 EXCEL ファイルダウンロード機能の追加(評価委員長用・副委員長・事務局用／評価委員用)
6. 新たに実用化肝炎をカテゴリに追加
7. その他、バグ修正と各種マイナー機能の追加

2 システムの試行と評価業務の記述

感染研職員と筆者が評価委員会の模擬委員となり、本システムを用いて、評価を行い、システムの動作確認等を行った。業務の範囲は、評価委員会が本評価前に紙面で評価を行う予備評価とした。その後、中間・事後評価委員

会において、実際に委員の入力を依頼し、委員会に活用した。

結果及び考察

1 システム開発

評価支援システムに関しては、修正点があるが、順調に進んでいると考えられるシステムの変更には時間がかかるため、評価票様式など、システムに影響を与える変更には、十分な時間的な余裕が必要である。

2 システムの試行と評価業務の記述

試行により、本システムがほぼ期待した通りに動作することが確認された。また、評価委員に対するアンケートの結果は、表1のとおりであり、今後の方向性として、システムによること望ましいが、併せて紙媒体による資料を送付し、評価の比較を容易にすることが必要であるとの意見が多数を占めた。

※図1 評価委員用の画面

中間申請課題評価 | 事業概要 | 中間 | ログアウト | 肝炎等免疫緊急対策研究事業

一覧画面へ戻る

研究代表者名: 徳永 剛士

研究課題名: 自然免疫のウイルス感染の抑制における宿主因子について、膜結合性電子顕微鏡を用いた膜結合タンパク質の機能解析とその応用

No: 1-03 | 開始年度: 23-25 | 課題番号: H23-肝炎-01-007 | 所属施設: 東京大学 大学院医学系研究科 人間免疫学部門 | 職名: 助教

研究概要 | 研究計画書

研究計画書 (PDF)

評価項目と評価結果

評価項目	評価結果
1. 専門性・学際性・学際性に関する評価	7/10
2. 研究計画の明確性 (品質)	7/10
3. 研究計画の妥当性・重要性	7/10
4. 研究計画の達成可能性	7/10
合計	28/40

研究概要 (抜粋)

1. 研究目的 (課題背景)

2. 当該研究の意義

3. 当該研究の従事者等

4. 当該研究の経費等

氏名	役職	所属
徳永 剛士	研究代表者	東京大学 大学院医学系研究科 人間免疫学部門
...

保存 | 印刷

※図2 管理者用の画面

中間評価情報修正 | 事業概要 | 中間 | ログアウト | 肝炎等免疫緊急対策研究事業

一覧画面へ戻る

中間評価情報修正

評価No	1-07 (半角英数字)
課題番号	H23 - 肝炎 - 若手 - 007
開始年度	23 (半角数字)
終了年度	25 (半角数字)
研究代表者名	紙谷 聡英 (全角)
研究代表者名フリガナ	カミヤ アキヒデ (全角カナ)
所属施設	東京大学 医学研究所 (全角)
職名	助教 (全角)
研究課題名	免疫機能を保持したヒト肝細胞キメラマウスによる慢性肝炎モデル作出 (全角)
研究計画書の登録	PDFファイル: H23-肝炎-若手-007-研究計画書.pdf <input type="button" value="参照"/>
成果報告書の登録	PDFファイル: H23-肝炎-若手-007-研究報告書.pdf <input type="button" value="参照"/>
予算額	6500000 円 (半角数字)

表1 評価試行によるコメント等

(回答数7名)

第1 システムを利用された委員(回答数5名)

質問1 評価支援システムは(紙媒体に比べ)使いやすいですか。

ア とても使いやすい	0名
イ どちらかといえば使いやすい	2名
ウ かわらない	1名
エ どちらかといえば使いにくい	2名
オ とても使いにくい	0名

質問2 画面は見やすいですか。

ア 見やすい	4名
イ どちらともいえない	0名
ウ 見にくい	1名

質問3 紙媒体の必要性

ア システムとは別に紙媒体が必要である	5名
イ どちらともいえない	0名
ウ システムとは別に紙媒体は不要である	0名

第2 システムを利用されなかった委員(回答数2名)

- 別に課題がありましたので、今回は、「紙」ベースとしました。次回はシステムを利用します。
- 日常システムを利用していないため。システムに全面変更する場合(これまで、すべての作業は紙媒体によっていたため)、新たに練習せざるを得ず、負担が大きすぎるため(個人的事情による)。従来どおりでよい。



201125039A (別添)

厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業

肝炎等克服緊急対策研究事業の企画及び評価に関する研究

平成23年度 総括・分担研究報告書(別添)

平成23年度厚生労働科学研究費補助金

肝炎等克服緊急対策研究事業

研究成果の概要

研究代表者 富澤一郎

平成24(2012)年3月

厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業
「肝炎等克服緊急対策研究事業の企画及び評価に関する研究」
研究代表者：富澤一郎（国立感染症研究所 企画調整主幹）
平成23年度 総括・分担研究報告書（別添）
「研究成果の概要」

平成23年度厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業の研究課題
に関して、平成24年1月26日に開催された研究発表会及び中間・事後評価委員会
資料（成果概要及びプレゼンテーション資料）をまとめた資料。

平成 23 年度 肝炎等克服緊急対策研究事業 研究成果概要

目次

(1 年目)		開 始 年 度	終 了 年 度	頁
茶山 一彰	創薬と新規治療法開発に資するヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス制御に関する研究	23	25	1
上本 伸二	肝移植後 C 型肝炎に対する治療法の標準化を目指した臨床的ならびに基礎的研究	23	25	9
前原 善彦	ゲノムワイド関連解析を用いた革新的な肝移植後肝炎ウイルス再感染予防・治療法の確立	23	25	18
森脇 久隆	ウイルス性肝疾患患者の食事・運動療法とアウトカム評価に関する研究	23	25	26
徳永 勝士	B 型肝炎ウイルス感染の病態別における宿主因子等について、網羅的な遺伝子解析を用い、新規診断法及び治療法の開発を行う研究	23	25	42
伊藤 昌彦	慢性 C 型肝炎患者由来 HCV 株感受性正常肝細胞による病原性発現機構の解明および薬剤評価系の構築 (H24 年度終了予定)	23	24	48
紙谷 聡英	免疫機能を保持したヒト肝細胞キメラマウスによる慢性肝炎モデル作出	23	25	54
渡士 幸一	マイクロ RNA を標的とした新規抗 C 型肝炎ウイルス治療戦略の開発	23	25	61
渡利 彰浩	移植肝への C 型肝炎ウイルス再感染阻害法の確立	23	25	69
富澤 一郎	肝炎等克服緊急対策研究事業の企画及び評価に関する研究	23	25	75
渡辺 哲	職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査とそれに基づく望ましい配慮の在り方に関する研究	23	25	79
相崎 英樹	慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集の在り方等に関する研究	23	25	86
田中 英夫	肝炎対策の状況を踏まえたウイルス性肝疾患患者数の動向予測に関する研究	23	25	94
平尾 智広	ウイルス性肝疾患に係る各種対策の医療経済評価に関する研究	23	25	103
田尻 仁	小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	23	25	110
工藤 正俊	慢性ウイルス性肝疾患の非侵襲的線維化評価法の開発と臨床的有用性の確立	23	25	117
成松 久	肝疾患病態指標血清マーカーの開発と迅速、簡便かつ安価な測定法の実用化	23	25	129
四柳 宏	集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究	23	25	138
八橋 弘	病態別の患者の実態把握のための調査及び肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究	23	25	143
泉 並木	慢性肝炎・肝硬変・肝癌の病態解明と各病態および都市形態別で求められる医療を考慮したクリティカルパスモデルの開発のための研究	23	25	152
龍岡 資晃	肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究	23	25	161
(2 年目)				
三田 英治	B 型慢性肝炎に対する新規逆転写酵素阻害剤テノホビルの有効性・安全性に関する検討	22	24	167
熊田 博光	ウイルス性肝炎における最新の治療法の標準化を目指す研究	22	24	177
金子 周一	ウイルス性肝疾患に対する分子標的治療創薬に関する研究	22	24	193
林 紀夫	ウイルス性肝炎からの発がん及び肝がん再発の抑制に関する研究	22	24	205

田中 靖人	ウイルス性肝炎に対する応答性を規定する宿主因子も含めた情報のデータベース構築・治療応用に関する研究	22	24	...	214
榎本 信幸	ウイルス性肝炎の病態に応じたウイルス側因子の解明と治療応用	22	24	...	224
脇田 隆宇	肝炎ウイルス感染複製増殖過程の解明と新規治療法開発に関する研究	22	24	...	232
下遠野邦忠	肝炎ウイルスによる肝疾患発症の宿主要因と発症予防に関する研究	22	24	...	240
大段 秀樹	自然免疫細胞リモデリングによるウイルス性肝炎の新規治療法の開発	22	24	...	249
松浦 善治	肝炎ウイルス感染における自然免疫応答の解析と新たな治療標的の探索に関する研究	22	24	...	263
小原 道法	ウイルス性肝炎に対する治療ワクチンの開発に関する研究	22	24	...	272
田中 純子	肝炎ウイルス感染状況・長期経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究	22	24	...	283
櫻井 文教	アデノウイルスベクターを利用した C 型肝炎治療薬創製基盤技術の開発	22	24	...	294
玉井 恵一	小胞輸送 ESCRT 経路を利用した C 型肝炎ウイルス排除	22	24	...	303
村山 麻子 (H23.9 政木 隆博より変更)	C 型肝炎ウイルスの非構造蛋白 5A を標的とした新規治療法の開発に関する研究	22	24	...	311
吉岡 靖雄	画期的 C 型肝炎ウイルス阻害療法の確立を目指した核酸医薬送達ナノシステムの開発	22	24	...	326
(3 年目)					
田中 榮司	B 型肝炎の核酸アナログ薬治療における治療中止基準の作成と治療中止を目指したインターフェロン治療の有用性に関する研究	21	23	...	335
持田 智	免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬による B 型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	21	23	...	363
溝上 雅史	B 型肝炎のジェノタイプ A 型感染の慢性化など本邦における実態とその予防に関する研究	21	23	...	378
鈴木 文孝	C 型肝炎における新規治療法に関する研究	21	23	...	387
竹原 徹郎	C 型肝炎難治症例の病態解明と抗ウイルス治療に関する研究	21	23	...	400
金子奈穂子 (H23.4 澤本 和延より変更)	慢性 C 型肝炎のインターフェロン療法における幹細胞機能の変化とうつ病発症に関する基礎・臨床連携研究	21	23	...	409
西口 修平	血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究	21	23	...	424
池田 一雄	日本人の細胞に由来する iPS 細胞からの誘導ヒト肝細胞を用いたキメラマウス肝炎モデル開発とその前臨床応用	21	23	...	442
堀田 博	肝炎ウイルスによる発がん機構の解明に関する研究	21	23	...	453
小池 和彦	肝炎ウイルスと代謝・免疫系の相互作用に関する包括的研究	21	23	...	463
岡本 宏明	経口感染する肝炎ウイルス (A 型・E 型) の感染防止、遺伝的多様性、および治療に関する研究	21	23	...	479
正木 尚彦	肝炎に関する全国規模のデータベース構築に関する研究	21	23	...	505
森島 恒雄	B 型肝炎の母子感染および水平感染の把握とワクチン戦略の再構築に関する研究	21	23	...	515
坂井田 功	骨髄および脂肪由来細胞を用いた次世代型肝臓再生・修復 (抗線維化) 療法の開発研究	21	23	...	524
本多 政夫	肝がんの新規治療法に関する研究	21	23	...	545

阿部 康弘	膜蛋白質発現系を利用した C 型肝炎ウイルス感染受容体の生化学的・疫学的解析 及び感染阻害剤の開発	21	23	...	557
楠本 茂	リツキシマブ併用悪性リンパ腫治療中の B 型肝炎ウイルス再活性化への標準的 対策法の確立及びリスク因子の解明に関する研究 (研究期間 1 年)	23	23	...	567
鈴木 淳史	肝炎による肝未分化細胞の発生とその発癌への影響に関する研究(研究期間 2 年)	22	23	...	578